

防災重点ため池の整備について



富山市農林水産部との視察を実施

● 防災重点ため池の基準変更 15カ所 ▶ 55カ所へ

平成30年7月に発生した西日本豪雨の際に、農業用ため池が決壊し、多くの人的被害をおよぼしたことは私達の記憶に新しい出来事です。そのため国は、ため池の機能は守りながらも防災の観点から「人的被害を与えるおそれ」のあるため池（防災重要ため池）の整備を目的として全国の防災重点ため池の基準を変更し再選定しました。

富山市には以前から15カ所の防災重点ため池が選定されていましたが、今回再選定の結果、55カ所と大きく増加しました。

● ハザードマップの作製や堤体の適切な維持・補強

防災重点ため池の基準の再選定によって、今後、富山市は、ハザードマップの作成や堤体の適切な維持、補強に向けた対策を効果的に推進する必要があります。



富山市最大規模のため池「藤ヶ池」



県が耐震工事をすすめる熊ヶ谷池（やがたにいけ）



ファミリーパーク内にある六泉池

富山市内のため池は江戸時代に整備されたものも多くあり、古くから地域の農業を守ってきました。

● 富山市が行う対策について

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 緊急連絡体制の整備 | 全てのため池144カ所（富山市内）について、緊急連絡網を作成し緊急時の連絡体制を整える。 |
| 2. 地域防災計画への位置付け | 防災重点ため池55カ所を災害危険地域として地域防災計画に位置付け、予防措置を推進する。 |
| 3. ハザードマップの作製 | 防災重点ため池55カ所について、決壊時の浸水想定範囲や避難場所を示したハザードマップを作成し、避難に必要な情報を周知する。（見直しの15カ所は富山市のHPに掲載済。残り40カ所は令和2年内に作成予定） |
| 4. 耐震調査 | 防災重点ため池について、地震時を想定した解析を行い地震に対する安全性を検討し、対策工事の計画策定に役立てる。 |

魅力ある街づくりや賑わい拠点の整備を進める一方で、多くの市民が安心して暮らせることができるよう、また将来市民に未永く安全な富山市を引き継げるように私達は皆さんの足もとで役割を果たします。

地方創生に全力投球!

しやがわ智也

2020年

08

市政報告

令和2年9月発行



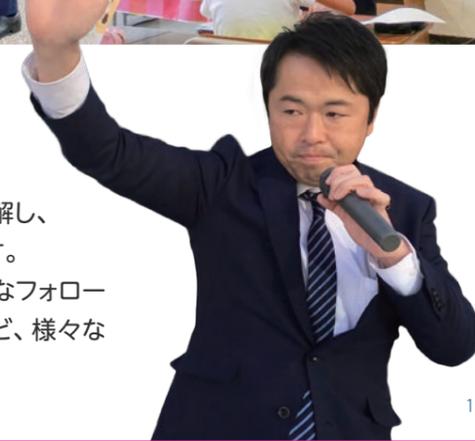
にひと 市政報告

令和元年度 富山市表彰



夏真盛りとなりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、新型コロナウイルス感染拡大は第一波を乗り越え、私達は第二波に向けて、新たな生活様式を取り入れながら、ウイルスとの共存を図っていく段階となりました。これまで、政府の要請により多くの国民が自粛環境に苦しみながらも要請の趣旨を理解し、この国難を乗り越えられたのも皆様一人ひとり協力があったからこそその結果であります。一方で、自粛による制限を余儀なくされた中小零細の事業者へのこれからの中長期的なフォローと、すぐそこに迫る第二波以降の波に備え、改めて医療体制や経済活動の再構築など、様々な見直しが官民ともに求められるものと考えております。



新型コロナウイルス感染症に対する議会対応

日本では今年の1月に初めての感染者が確認され、首都圏や北海道を中心に感染が拡大し、富山市においても、3月30日に第一感染者が確認されました。以降、感染者の確認は低推移となっていたものの富山市民病院、民間リハビリ施設にクラスターが発生したことによって県内では250名を超える感染者が確認され、現在も日々感染が拡大しています。

市民や各種団体からの多くの声

初めて目の当たりにするウイルスに対して、市民は多くの不安が募り、議会には連日、市民や各種団体の声が多く寄せられ、中には医療スタッフからの悲痛な声もありました。

医療機関への支援について県議会議長を通じて県知事に依頼

富山市民病院に院内感染が発生し、病院としての一部機能を休止するなど、医療現場は重大な局面を迎えました。加えて、医療関係者は自らの感染リスクと向き合いながら市民の命を守るため、最前線で従事しています。

このような現状を憂慮し、4月14日に外来診療及び救急患者の受け入れ協力の体制確保や医療従事者および感染者の誹謗中傷防止対策の推進などに県に対し、その働きかけを依頼しました。



POINT

富山市民病院は富山市の運営なのに、なぜ県に依頼？

我が国では、医療の提供体制などの地域の医療計画は都道府県が作成します。その計画に基づいて、県は医療圏ごと（県内には、富山、高岡、新川、砺波の4つの医療圏があります）の病床数の調整や医療提供体制の整備を担うことになっています。市民病院に院内感染が発生し、医療崩壊が懸念される中、市民病院や医療スタッフに対する包括的な体制整備を県に協力を依頼しました。

新型コロナウイルス感染症情報連絡会議の設置

新型コロナウイルス感染症の発生状況や市の対応策等に関して、市議会として迅速な情報共有を図るとともに市当局に対し必要な要望等を行う会議で、4月10日に設置しました。



新型コロナウイルス感染症情報連絡会議

富山市に対して要望を提出

学校現場での感染予防、市民病院やまちなか病院の医療機関への支援、経済対策など、緊急性が高いと判断した事項を取りまとめ、4月17日に富山市長に提出しました。

- ・市民への情報提供
- ・学校給食に関する支援
- ・医療現場や保育現場への支援
- ・地域経済対策
- ・建設事業者に対する受注の円滑化対策 など、24項目を要望



富山市に対して2回目の要望を提出

第一回目の要望提出に引き続き、改めて各会派から寄せられた要望を新型コロナウイルス感染症情報連絡会議で調整を行い、5月15日に今本副市長に提出しました。

- ・GIGAスクール構想の早期実現とオンライン教育環境の整備
- ・富山大学との連携強化による検疫体制の強化
- ・プレハブやドライブスルーなどのPCR検査の体制整備や検体運搬の民間委託
- ・児童虐待やDV、高齢者虐待などの相談体制強化
- ・農林業への転職支援

など、22項目を要望



5月臨時会 新型コロナウイルス感染症対策予算 429億7,400万余円を追加



常任委員会の視察を中止 654万円をコロナ対策に充当するよう申し入れを実施

国の緊急事態宣言は解除となりましたが地域によっては第二波とされる拡大も確認されており、議員活動に制限をかけるとして一部反対意見もありましたが、現状を鑑みますと、県をまたぐ移動によって議員自らが感染源となる可能性があることから委員会の視察を中止を決定しました。

中止にかかる費用654万円は5月臨時会で減額補正し、6月定例会で上程される『ひとり親家庭支援給付金』や観光誘致宣伝費『GoToキャンペーン推進事業』に充当されました。

新型コロナウイルス感染症を理由とする 偏見や不当な差別、風評被害の防止に関する決議

3月30日に富山市内で初めての感染者が確認されて以降、連日感染者が確認され、市民の中では感染に対する不安が高まっています。そうした中、感染者や医療従事者、その家族に対する誹謗中傷や根拠のない差別的な言動が見受けられます。本来、市民全体で守るべき感染者であるほか、医療従事者においては、拡大防止のため最前線でウイルスと戦っている方々であり、感謝こそすべき医療従事者に対する偏見や不当な差別がないよう強く呼びかけることを全会一致で決議しました。



6月定例会 感染防止や地域経済、市民の生活を守る予算 22億9,100万余円を追加

6月定例会では5月臨時会に引き続き新型コロナウイルス感染症を防止するための予算が多くを占めております。小中学校の臨時休業による学童保育や放課後デイサービス事業の開所時間拡大等に伴う経費、保育施設や介護サービス事業所等において消毒液等の感染防止用品を購入するための経費のほか、子育て世帯の生活を支援するため、児童手当受給世帯やひとり親家庭への給付金を支給することを議決しました。また、地域経済を支える取り組みとして農林水産業を支える生産者などを応援する販促イベントの開催経費を支援のほか、観光誘致事業『GoToキャンペーン』や中小の事業者に対する融資制度の拡充を議決しました。



議員の期末手当及び政務活動費を削減しコロナ感染症対策基金に充当

6月定例会初日に議員提出議案として、『令和2年12月の富山市議会議員の期末手当の特例に関する条例』と『富山市議会政務活動費の交付に関する条例』の2件を可決しました。

- ・令和2年12月の市議会議員の期末手当の削減分 ▲5,511千円
 - ・令和2年度の政務活動費の減額分 ▲24,975千円
- 合計 30,486千円

コロナ対策
基金へ

POINT

全会一致ならず!?

コロナウイルス感染拡大防止の観点から我々の議員活動が大きく制限されております。活動が制限される分の費用を削減し富山市のコロナ対策予算に充当することが今回の趣旨であります。一部の議員から議員自らの活動を放棄することに繋がるなどの意見が上がり全会一致に至りませんでした。政務活動費は利用せずとも議会の役割を最大限に発揮し、市民の不安と向き合ってください。

学校教育情報化推進事業 小中学校あわせて 125,450千円

『1人1台端末』の早期実現や家庭でも繋がる通信環境の整備等『GIGAスクール構想』における整備を加速することで、緊急時においてもICTの活用により、すべての子どもたちの学びを保障できる環境の早急な実現を目指すものです。



学習イメージ

富山市の新型コロナウイルス感染症の対応と課題について

新型コロナウイルス感染拡大で社会は大きく変わった

富山駅南北開通に沸いた今年の3月21日。森市長の念願と富山市民の100年の夢が実現した。赤羽国交大臣や富山市の特別副市長の柴田理恵さんをお招きし、その式典は盛大に開催され、南北開通を待ちに待った市民も富山駅を中心とした賑わいがこの日を機に更に活気づくものと大きな期待を膨らませた。

しかしながら、そのわずか9日後… 富山市内に新型コロナウイルスの第一感染者が確認され、得体の知れないウイルスがいよいよ富山市に入ってきたという事実を目の当たりにし、多くの市民は動揺し、一部は疑心暗鬼となり様々な不確かな情報も飛び交う中で、国の緊急事態宣言が発出されたことから、互いのコミュニケーションを失うこととなり南北開通前の富山駅のように人々は分断され、新型コロナウイルス感染拡大で社会は大きく変わった。

市民病院のクラスター発生で危機感が増幅した

第一感染者が確認されて以降、市内の感染者は低推移ながらも増加の一途を辿った。不安を抱いた市民の方々から「感染していないか心配だ」「早く検査してほしい」、「保所に連絡しても取り合ってもらえない」、「議長の力で早くPCR検査を受けられるようにしてほしい」、「命をどう考えるのか」など連絡や苦情が寄せられ、市民感情は不安から恐怖に変わり、その後は犯人捜しのようなことまで起きていた。そうした中、私達が最も恐れていた市民病院での院内感染が発生し、後にクラスター（集団感染）に至り、行政側の危機感が増幅した。また、市と県の情報発信の在り方にも相違が生じ、議会側にも行政の発信について、苦情・苦言が多く集まった。

課題 01

保健所職員のマンパワーの限界

その頃、富山市保健所では、PCR検査を実施するための準備や手配、また、濃厚接触者の特定や感染者の行動履歴を聞き取るなど多くの職員が対応にあたった。しかしながら、検査を望む市民や検査基準に不満がある市民からの苦情も重なり保健所職員のマンパワーは限界を超えていた。

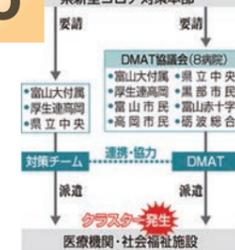


富山市保健所

保健所とは？ 心の悩み・医療・医薬品の相談、感染症の予防・検査、ペットの登録、食品関係の施設（飲食店など）の営業許可、水質調査などを担う。地域保健法第5条により中核市や政令都市などに設置される。

課題 03

チーム派遣の流れ



北日本新聞Webunより

課題 02

医療現場と管理側の壁

3月11日に市民病院で院内感染が判明した。6月の厚生委員会で市民病院から『院内感染が生じた要因について』の報告があった。



富山市民病院

院内感染が生じた要因について（富山市民病院発表）

- ①新型コロナウイルス感染症は、感染してから症状が発現する前でも強い感染力があるがあること。
- ②整形外科病棟の患者は、多くが消炎鎮痛剤を服用しており発熱症状等が抑えられていた可能性があり、感染発見が遅れ、最初の感染者が判明した時点で、既に感染が一定程度広がっていた可能性があること。
- ③感染伝播経路は、患者への看護やリハビリを介したものと職員同士の濃厚接触などが考えられ、いずれの場合も飛沫感染や接触感染の予防策が不十分であったと考えられる。
- ④飛沫感染予防に比べて接触感染予防策や環境汚染対策への意識が薄かったと考えられること。
- ⑤感染者を隔離するため急遽設置した感染者専用の病棟では、感染対策の習熟に十分な時間を割けない状況の中で看護にあたったため、個人用防護具の着脱手技や接触予防策が徹底できていなかったことのほか、職員間のコミュニケーション不足、病院の環境整備が十分でなかったこと。

3月10日に外来診療を休止し、院内感染を抑えるため、医療スタッフは休み時間もなく最前線に対応に追われた。14日には自宅待機職員は223人になり現場は疲弊していった。職員のコミュニケーション不足として病院側はあげているが、医療現場と管理側の壁こそ今回の大きな問題と考える。患者のPCR検査の結果においても管理者側と現場との間で情報共有がされていないという現場からの声もあった。



民間介護施設でのクラスター発生

4月17日には民間介護施設で感染者が確認されて以降、施設内での感染が広がり、クラスターの発生に至った。当該施設で感染者が広がりを見せた際、市の担当者や保健所側から経営者に連絡を取るものの連絡がつかず情報が把握できなかった。ここでの課題のひとつとしては、民間施設ではあるものの、本来は富山市の積極的な関与が必要であったと考える。議会としても検証しなくてはならない。

4月25日は富山大学付属病院の山城先生らが県の医療支援チームとして施設に入った。その際、施設側の職員は5名のみで入所者の対応に追われていた。その後、山城先生のチームにより感染者と非感染者のゾーニングが行われた。

5月8日までに県と市、介護保険協会に依頼していた応援（介護士2名、看護師2名）が入った。

山城先生は、この応援が入った際、医療ケアを行うことは優先されるが、介護士による声掛けや心身に寄り添うケアが行われたことによって、入所者は元気を取り戻していったと語っておられた。医療介護の連携が有事の施設を救った。また、今回は患者の総合的な健康面と向き合う総合診療医の重要性も取り上げた。

第2波以降の対応について、平時における保健所機能は一部の改善にとどめるも、有事の際には県や市の行政区間や病院機能（感染症指定病院や急性期）を乗り越えての支援や連携がとれるチームづくりが必要である。5月28日に行われた山城先生が実施した検証会においても、今回の民間介護施設における有事の連携自体は成功し、今後に活かされるものと報告されているが、実態として、県や市、医療機関との情報共有に課題を残した。そのことを踏まえ、県において、DMATとの連携を含むチームをつくり、有事における流れを構築し今後に備えるとした。

（上記の「チーム派遣の流れ」）

感染拡大に思うこと コロナウイルスの発生と



中国は武漢が発生源とは認めず、逆に世界各国にマスクを配り、自作自演とも思えるような手法が目立ちます。しかし、マスク供給ひとつをみても、中国頼みで、気付けば、いつの間にか中国の工場が世界に進出してことを思い知らされました。まるで、ウイルス感染が世界に広まるように…

正式名称『COVID-19』？ WHOが命名？

当該ウイルスに関しては、当初、専門家の中で人工的な手が加わったものだろうという見方が囁かれていました。増殖できる酵素が十種類近くあるそうで、増殖方法がこんなに多くあるのは極めて珍しく、自然界には存在しないということです。また、今回、WHOは、新型コロナウイルスの名前について、不正確だったり反感を引き起こすような名前を阻止するためとして『COVID-19』という名称としましたが、本来であれば、将来もわかりやすいように『武漢ウイルス』と呼ばなければ発生源がどこだったのかということも分からなくなってしまいます。単なる公衆衛生の問題ではなく国の安全保障に関わると思います。

日本文化が感染拡大を防いだ

今回の緊急事態宣言は我々にとって大変厳しいものとなりました。しかしながら、憲法に緊急事態の条項が明記されていないことや周辺の法整備されていないことから国や都道府県知事に命令権がない。あくまでもお願いしかできません。そうした中でも多くはマスクを着用し、毎日のように風呂に入る。大きな感染源とされる靴を玄関で脱ぎ、手を洗う。抱擁はせずにお辞儀で挨拶をするなど清潔好きな国民性や独自の生活文化、そして市民の倫理観の高さによって第一波は防げたものと思っています。他方で法整備の必要性も強く感じる次第です。

『想定外』は歴史を知りませんと言っているのと同じ古きを学んで、数値やデータで判断

人類は過去に何度もウイルスとの闘いを乗り越えてきました。感染症の歴史に強い東大の月尾名教授は人類が完全に撲滅できたのは天然痘のみで、新型コロナウイルスは身近なインフルエンザのように共存していかなくてはならないと言われていました。これまでの歴史を学ぶことに加えて数値やデータを駆使し市民生活と経済を守り、コロナウイルスとの共存を図っていかなくてはならないと考えています。進化論を唱えたダーウィンは『最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは変化できるもの者である』という有名な言葉を残しています。



平成31年度の記録

(令和元年度)



議会正常化を目指し、日々奮闘しております。

議長として、議案審議はもとより、当局との調整や各会派との合意形成を図るための交渉のほか、議会の『顔』として、公務にも全力で取り組み、議会の信頼回復に励んでまいります。

第64回 富山防犯協会 定例総会



富山防犯協会定期総会



富山県地方議員連盟総会



東京富山市友会



国際親善事業など



朝乃山閣 令和元年5月場所優勝記念祝賀会



国体出場選手壮行会



瑞峰立山賞記念競輪



全国地域おこし名人サミット



富山市災害訓練



富山市議長杯パークゴルフ大会



再エネ水素ステーション竣工式



富山市街地重点防御築堤事業



愛宕保育所竣工式



富山市北商工会合併10周年



行政視察の対応



富山市表彰式



富山市優秀選手監督表彰式

蛭川すてき探偵団で『ゲストティーチャー』

保護司の舎川さん

蛭川小学校の3年生4クラスに、保護司の活動を知ってもらう機会を頂きました。

地域に愛着や誇りをもってもらうため、蛭川小学校が企画。地域のボランティアや団体が小学校を訪れ、ゲストティーチャーとして、それぞれの取り組みや校区の伝統や歴史、文化などを伝えています。

子供たちが地域を想う豊かな心を育むためにと精一杯頑張りましたが、今回はそれ以上に3年生の子供たちから多くを学びました。

この機会を頂きました蛭川小学校の先生方や保護観察所のみなさんには大変お世話になりました。

にながわふれあい子ども食堂のみなさんや八坂神社の松尾宮司も素晴らしいゲストティーチャーを務められました。

子どもたちの「知りたい!」のパワーに圧倒! 質問攻めにあってました。

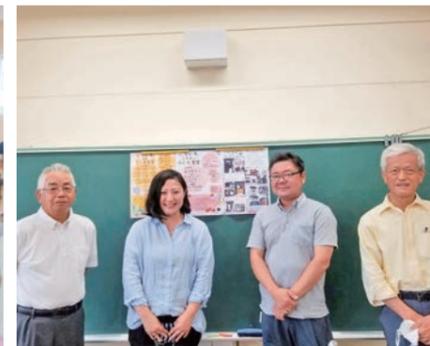
この他にも、蛭川赤十字奉仕団のみなさんもゲストティーチャーを務められました。お疲れさまでした。



先生方の大変さを身をもってしりました



保護司のマスコット「ホゴちゃん」も登場



にながわふれあい子ども食堂のみなさん



八坂神社 松尾宮司

発見!! 黒崎種田遺跡発掘調査現地説明会

アニメ『一休さん』 新右衛門さんゆかりの地

室町時代の足利将軍に仕えた蛭川氏発祥の地となる『蛭川館跡』の北に隣接した「屋敷跡」が発掘され、昨年10月に現地にて説明会が開催されました。

東西110m、南北250mに及ぶもので、県内で発掘された「屋敷跡」としては最大級のものとなります。

蛭川氏は、幕府で政所代を代々務め、6代目朝親の孫にあたる蛭川親当は、アニメ『一休さん』の「新右衛門さん」のモデルです。

当該調査においては、貴重な出土品が多数発見され、蛭川の地の歴史や文化の解明にも役立つほか、将来の文化創造と発展の基礎ともなり得る重要な国民財産が出土されたものと感じております。

調査後は開発事業が再開されましたが、今は先人が感じたであろう風や土の匂いを時代を超えて感じ、今後の文化財保護行政について、今一度考えていきたいと思う、そんな意義深い時間となりました。

